

交流セッション4：事例研究から看護学を創ろう

プランナー：山本 則子

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

山本 則子 東京医科歯科大学大学院

辻村 真由子、小笹 優美、石垣 和子 千葉大学看護学部

事例研究は、看護において長く活用されてきた基本的な研究方法の一つです。しかし、そのわりには、具体的な方法論が確立され、実際に作成された事例研究がその後の看護実践に（当人たち以外には）十分に活用されているとは言い難い現状だ、と感じるのは、私だけではないのではないのでしょうか。

この交流集会では、まず、事例研究の意義や目的、具体的な書き方などについて振り返りたいと思います。さらに、事例研究を今後より発展的に活用するために、事例研究のメタ統合について紹介します。最後に、今後事例研究をより積極的にまとめたり、統合したりするための学会のあり方等について、皆さんと意見交換したいと思っています。

以下は話題として考えている内容です。

1. 事例研究はなんのために行うか

「事例を振り返り、今後の実践に活かす」ために事例研究を行うということはよく知られていると思うのですが、その割には、「今後の実践に」十分に活かされているとは言い難い現状があるように思います。もう一度、有意義な事例研究を書くために、事例研究の目的と意義を振り返りたいと思います。

2. 事例研究には何を書けばいいか

事例研究の目的と意義を再認識したところで、その目的に見合うためにどのような内容の論文にした方がいいのか、検討していきたいと思います。

3. 学会発表をどうするか

論文の作成までは敷居が高いと思われる方も、学会発表であればもう少し抵抗なく実現できるでしょうか。実践の学問ですから、事例研究ももっとどんどん学会発表していくとよいと思います。事例研究を発表する際に、どのようなことを踏まえたらいいいのか、考えてみましょう。

4. 事例研究の統合（＝蓄積）

事例研究を意味のある形に蓄積して実践に活用し、さらに事例に基づいた「看護学」を創造してゆくためには、事例研究をはじめとする質的研究のメタ統合が必要だと強く感じています。ここでは、質的研究のメタ統合について紹介し、事例研究からその統合へいたる道筋を考えてみたいと思います。

5. 看護学の発展に向けたアイデア

事例研究を発展させて、本当の意味で実践に立脚した「看護学」を作ってゆくために、みなでこれからどんなふうに努力していったらいいのか、私見をいくつか紹介して、皆さんと意見交換をさせて頂きたいと思っています。